

Ⅲ.指導的な役割を担う看護師に
求められる【能力】

23

指導的な役割を担う看護師に求められる【能力】

1	学校で生活する医療的ケア児のニーズを多角的にとらえて看護を実践する能力
2	医療的ケア児を尊重する姿勢やそのための多職種協働を推進する能力
3	医療的ケア看護職員・教職員等と関係を築く能力
4	保護者との関係を形成・対応する能力
5	場に即した役割を見出していく能力
6	看護の質を組織として保証する能力

24

調査結果から整理した「指導的な役割を担う看護師に求められる【能力】」の一覧である。内容のカテゴリーは以下の通り整理した。

- 1 学校で生活する医療的ケア児のニーズを多角的にとらえて看護を実践する能力
- 2 医療的ケア児を尊重する姿勢やそのための多職種協働を推進する能力
- 3 医療的ケア看護職員・教職員等と関係を築く能力
- 4 保護者との関係を形成・対応する能力
- 5 場に即した役割を見出していく能力
- 6 看護の質を組織として保証する能力

指導的な役割を担う看護師に求められる【能力 1-1】

1	学校で生活する医療的ケア児のニーズを多角的にとらえて看護を実践する能力
2	医療的ケア児を尊重する姿勢やそのための多職種協働を推進する能力
3	医療的ケア看護職員・教職員等と関係を築く能力
4	保護者との関係を形成・対応する能力
5	場に即した役割を見出していく能力
6	看護の質を組織として保証する能力

能力の要素:

1)	児童生徒と心から向き合う力
2)	医療的ケア児の成長発達を見据えた学校生活を整える力
3)	医療的ケア児に適したコミュニケーション能力
4)	的確に医療的ケア児の全体像を捉え判断する力

25

【指導的な役割を担う看護師に求められる能力1「学校で生活する医療的ケア児のニーズを多角的にとらえて看護を実践する能力」】

【能力1】は、4要素から構成された。

- 1) 児童生徒と心から向き合う力
- 2) 医療的ケア児の成長発達を見据えた学校生活を整える力
- 3) 医療的ケア児に適したコミュニケーション能力
- 4) 的確に医療的ケア児の全体像を捉え判断する力

指導的な役割を担う看護師に求められる【能力 1-2】

1 学校で生活する医療的ケア児のニーズを多角的にとらえて看護を実践する能力

語りの要約(一部抜粋)：

“児童生徒と積極的に接したい気持ち”

“医療的ケア児の反応をとらえてコミュニケーションをとる”

“医療的ケアを成長発達や生活の変化に合わせて検討する視点”

“学校という生活のなかでの医療的ケアというとらえ方を”

“医療的ケア児の最善の利益を確保するためのケアになっているかという視点で考える”

“医療的ケアに限らずその子全体をみていく”

能力の要素：

1)	児童生徒と心から向き合う力
2)	医療的ケア児の成長発達を見据えた学校生活を整える力
3)	医療的ケア児に適したコミュニケーション能力
4)	的確に医療的ケア児の全体像を捉え判断する力

26

【能力1の要素となった語りの要約】

【能力1】は次のような語りの要約から導き出された。

“児童生徒と積極的に接したい気持ち”

“医療的ケア児の反応をとらえてコミュニケーションをとる”

“医療的ケアを成長発達や生活の変化に合わせて検討する視点”

“学校という生活のなかでの医療的ケアというとらえ方を”

“医療的ケア児の最善の利益を確保するためのケアになっているかという視点で考える”

“医療的ケアに限らずその子全体をみていく”

指導的な役割を担う看護師に求められる【能力 2-1】

1	学校で生活する医療的ケア児のニーズを多角的にとらえて看護を実践する能力
2	医療的ケア児を尊重する姿勢やそのための多職種協働を推進する能力
3	医療的ケア看護職員・教職員等と関係を築く能力
4	保護者との関係を形成・対応する能力
5	場に即した役割を見出していく能力
6	看護の質を組織として保証する能力

能力の要素:

- | | |
|----|--------------------------------|
| 1) | 教職員による児童生徒の成長発達等のとらえ方の共有 |
| 2) | 校内・地域との多職種協働の中での児童生徒中心(思考)でいる力 |
| 3) | 医療的ケアに留まらずに児童生徒を捉え関わる力 |

【指導的な役割を担う看護師に求められる能力2「医療的ケア児を尊重する姿勢やそのための多職種協働を推進する能力」】

【能力2】は、3要素から構成された。

- 1) 教職員による児童生徒の成長発達等のとらえ方の共有
- 2) 校内・地域との多職種協働の中での児童生徒中心(思考)でいる力
- 3) 医療的ケアに留まらずに児童生徒を捉え関わる力

指導的な役割を担う看護師に求められる【能力 2-2】

2	医療的ケア児を尊重する姿勢やそのための多職種協働を推進する能力
---	---------------------------------

語りの要約(一部抜粋)：

“教職員とともに医療的ケア児の成長を喜ぶ姿勢”

“医療的ケア児の成長発達について教職員等との多職種と共有することによる連携の視点”

“医療的ケア児の権利を守るためにケアがあり医療的ケア看護師がいるという認識”

“医療的ケア児を中心とした合意形成のため日頃からの教職員とのコミュニケーション”

“ケア以外にも医療的ケア児と関わる”

“合間を縫って医療的ケア児に会いに行く時間をつくる”

能力の要素：

- | | |
|----|--------------------------------|
| 1) | 教員による児童生徒の成長発達等のとらえ方の共有 |
| 2) | 校内・地域との多職種協働の中での児童生徒中心(思考)でいる力 |
| 3) | 医療的ケアに留まらずに児童生徒を捉え関わる力 |

28

【能力2の要素となった語りの要約】

【能力2】は次のような語りの要約から導き出された。

“教職員とともに医療的ケア児の成長を喜ぶ姿勢”

“医療的ケア児の成長発達について教職員等との多職種と共有することによる連携の視点”

“医療的ケア児の権利を守るためにケアがあり医療的ケア看護師がいるという認識”

“医療的ケア児を中心とした合意形成のため日頃からの教職員とのコミュニケーション”

“ケア以外にも医療的ケア児と関わる”

“合間を縫って医療的ケア児に会いに行く時間をつくる”

指導的な役割を担う看護師に求められる【能力3-1】

1	学校で生活する医療的ケア児のニーズを多角的にとらえて看護を実践する能力
2	医療的ケア児を尊重する姿勢やそのための多職種協働を推進する能力
3	医療的ケア看護職員・教職員等と関係を築く能力
4	保護者との関係を形成・対応する能力
5	場に即した役割を見出していく能力
6	看護の質を組織として保証する能力

能力の要素：

- | | |
|----|---|
| 1) | 児童生徒主体であるための医療的ケア看護職員・教職員等との柔軟性・共感性・協調性 |
| 2) | 医療的ケア看護職員・教職員等との組織づくりのための能力 |
| 3) | 状況把握力・高い感度 |
| 4) | 多職種間の関係性構築力 |
| 5) | 相手を尊重した交渉・調整力 |

29

【指導的な役割を担う看護師に求められる能力3「医療的ケア看護職員・教職員と関係を築く能力」】

【能力3】は、5要素から構成された。

- 1) 児童生徒主体であるための医療的ケア看護職員・教職員等との柔軟性・共感性・協調性
- 2) 医療的ケア看護職員・教職員等との組織づくりのための能力
- 3) 状況把握力・高い感度
- 4) 多職種間の関係性構築力
- 5) 相手を尊重した交渉・調整力

指導的な役割を担う看護師に求められる【能力3-2】

3	医療的ケア看護職員・教職員等と関係を築く能力
---	-------------------------------

語りの要約(一部抜粋)：

“教職員、医療的ケア看護職員、管理職等、それぞれの視点を尊重する姿勢”

“教職員や医療的ケア看護職員の考えや言葉や関係性が医療的ケア児に大きく影響を及ぼすことを理解する”

“医療的ケア児と保護者、学校、デイサービス等からの多くの情報を処理する能力”

“相談対応時、相手の気づかぬ真の課題を見出す洞察力”

“教職員と医療的ケア看護職員のことを良く把握した上で、双方の橋渡しをして関係性を構築するきっかけをつくる”

“相手の思いを聴く姿勢”

能力の要素：

1)	児童生徒主体であるための看護師・教職員等との柔軟性・共感性・協調性
2)	医療的ケア看護職員・教職員等との組織づくりのための能力
3)	状況把握力・高い感度
4)	多職種間の関係性構築力
5)	相手を尊重した交渉・調整力

30

【能力3の要素となった語りの要約】

【能力3】は次のような語りの要約から導き出された。

“教職員、医療的ケア看護職員、管理職等、それぞれの視点を尊重する姿勢”

“教職員や医療的ケア看護職員の考えや言葉や関係性が医療的ケア児に大きく影響を及ぼすことを理解”

“医療的ケア児と保護者、学校、デイサービス等からの多くの情報を処理する能力”

“教職員と医療的ケア看護職員のことを良く把握した上で、双方の橋渡しをして関係性を構築するきっかけをつくる”

“相手の思いを聴く姿勢”

指導的な役割を担う看護師に求められる【能力 4-1】

1	学校で生活する医療的ケア児のニーズを多角的にとらえて看護を実践する能力
2	医療的ケア児を尊重する姿勢やそのための多職種協働を推進する能力
3	医療的ケア看護職員・教職員等と関係を築く能力
4	保護者との関係を形成・対応する能力
5	場に即した役割を見出していく能力
6	看護の質を組織として保証する能力

能力の要素:

- | | |
|----|-----------------------|
| 1) | 保護者の理解と関係構築 |
| 2) | 総合的な情報に基づく保護者への対応・調整力 |

31

【指導的役割を担う看護師に求められる能力4「保護者との関係を形成・対応する能力」】

【能力4】は、2要素から構成された。

- 1) 保護者の理解と関係構築
- 2) 総合的な情報に基づく保護者への対応・調整力

指導的な役割を担う看護師に求められる【能力 4-2】

4 保護者との関係を形成・対応する能力

語りの要約(一部抜粋)：

“保護者との関係構築のための関わりと情報収集”

“医療的ケア方法は、保護者と児のコミュニケーションを経て受け入れてきた過程があるという認識”

“保護者の心情を理解しようとする姿勢”

“保護者との関係性構築を大切にする姿勢”

“保護者の医療的ケア方法に疑問を感じた時の対応力”

“保護者の思いを尊重する姿勢”

能力の要素：

- | | |
|----|-----------------------|
| 1) | 保護者の理解と関係構築 |
| 2) | 総合的な情報に基づく保護者への対応・調整力 |

32

【能力4の要素となった語りの要約】

【能力4】は次のような語りの要約から導き出された。

“保護者との関係構築のための関わりと情報収集”

“医療的ケア方法は、保護者と児のコミュニケーションを経て受け入れてきた過程があるという認識”

“保護者の心情を理解しようとする姿勢”

“保護者との関係性構築を大切にする姿勢”

“保護者の医療的ケア方法に疑問を感じた時の対応力”

“保護者の思いを尊重する姿勢”

指導的な役割を担う看護師に求められる【能力 5-1】

1	学校で生活する医療的ケア児のニーズを多角的にとらえて看護を実践する能力
2	医療的ケア児を尊重する姿勢やそのための多職種協働を推進する能力
3	医療的ケア看護職員・教職員等と関係を築く能力
4	保護者との関係を形成・対応する能力
5	場に即した役割を見出していく能力
6	看護の質を組織として保証する能力

能力の要素:

- | | |
|----|----------------------|
| 1) | 状況から必要性を判断し自ら役割を見出す力 |
| 2) | 役割を果たすために自己研鑽する力 |

33

【指導的な役割を担う看護師に求められる能力5「場に即した役割を見出していく能力」】

【能力5】は、2要素から構成された。

- 1) 状況から必要性を判断し自ら役割を見出す力
- 2) 役割を果たすために自己研鑽する力

指導的な役割を担う看護師に求められる【能力5-2】

5 場に即した役割を見出していく能力

語りの要約(一部抜粋)：

“規定にとらわれない柔軟な多職種連携の視点”

“情報整理から自身の役割を見出す”

“判断基準がないなかから医療的ケアの実施環境をつくる”

“全国や自治体全体を視野に問題意識を持つ”

“自治体全体の実態を把握し教職員、看護師、管理職の期待にこたえる”

“自分育て、アンテナを高くして様々な人の意見を聴きながらいろんなことに挑戦して勉強する”

能力の要素：

- 1) 状況から必要性を判断し自ら役割を見出す力
- 2) 役割を果たすために自己研鑽する力

34

【能力5の要素となった語りの要約】

【能力5】は次のような語りの要約から導き出された。

“規定にとらわれない柔軟な多職種連携の視点”

“情報整理から自身の役割を見出す”

“判断基準がないなかから医療的ケアの実施環境をつくる”

“全国や自治体全体を視野に問題意識を持つ”

“自治体全体の実態を把握し教職員、看護師、管理職の期待にこたえる”

“自分育て、アンテナを高くして様々な人の意見を聴きながらいろんなことに挑戦して勉強する”

指導的な役割を担う看護師に求められる【能力6-1】

1	学校で生活する医療的ケア児のニーズを多角的にとらえて看護を実践する能力
2	医療的ケア児を尊重する姿勢やそのための多職種協働を推進する能力
3	医療的ケア看護職員・教職員等と関係を築く能力
4	保護者との関係を形成・対応する能力
5	場に即した役割を見出していく能力
6	看護の質を組織として保証する能力

能力の要素:

- | | |
|----|-------------------|
| 1) | 組織として一貫した看護を保証する |
| 2) | 責任感・使命感 |
| 3) | 管理能力 |
| 4) | 職場環境への配慮や活性化への対応力 |

35

【指導的な役割を担う看護師に求められる能力6「看護の質を組織として保障する能力」】

【能力6】は、4要素から構成された。

- 1) 組織として一貫した看護を保証する
- 2) 責任感・使命感
- 3) 管理能力
- 4) 職場環境への配慮や活性化への対応力

指導的な役割を担う看護師に求められる【能力 6-2】

6 看護の質を組織として保証する能力

語りの要約(一部抜粋)：

“組織化して一貫した関わりを持つ”

“自身の立場を理解し、勝手な行動や判断をしない姿勢”

“医療的ケア看護職員を守るために自分が責任を取るとい
う使命感”

“相談対応に最後まで責任を持つ姿勢”

“複数の医療的ケア看護職員をまとめるための管理能力”

“医療的ケア看護職員同士が活発な意見を交換しやすい職
場風土の構築”

能力の要素：

- | | |
|----|-------------------|
| 1) | 組織として看護を保証する |
| 2) | 責任感・使命感 |
| 3) | 管理能力 |
| 4) | 職場環境への配慮や活性化への対応力 |

36

【能力6の要素となった語りの要約】

【能力6】は次のような語りの要約から導き出された。

“組織化して一貫した関わりを持つ”

“自身の立場を理解し、勝手な行動や判断をしない姿勢”

“医療的ケア看護職員を守るために自分が責任を取るとい
う使命感”

“相談対応に最後まで責任を持つ姿勢”

“複数の医療的ケア看護職員をまとめるための管理能力”

“医療的ケア看護職員同士が活発な意見を交換しやすい職
場風土の構築”

指導的な役割を担う看護師の【役割】

1	医療的ケア看護職員のために体制を整備する
2	医療的ケア看護職員を支援する
3	医療的ケア看護職員を育成する
4	組織として医療的ケアを管理する
5	認定特定行為業務従事者を含む教職員を支援する
6	校内の多職種と連携・協働する
7	学校医や主治医等と連携・協働する
8	医療的ケア児の学校生活を総合的に支援する
9	保護者を尊重しながら支援する
10	地域の特性や資源に応じた連携・役割をとる

指導的な役割を担う看護師に求められる【能力】

1	学校で生活する医療的ケア児のニーズを多角的にとらえて看護を実践する能力
2	医療的ケア児を尊重する姿勢やそのための多職種協働を推進する能力
3	医療的ケア看護職員・教職員と関係を築く能力
4	保護者との関係を形成・対応する能力
5	場に即した役割を見出していく能力
6	看護の質を組織として保証する能力

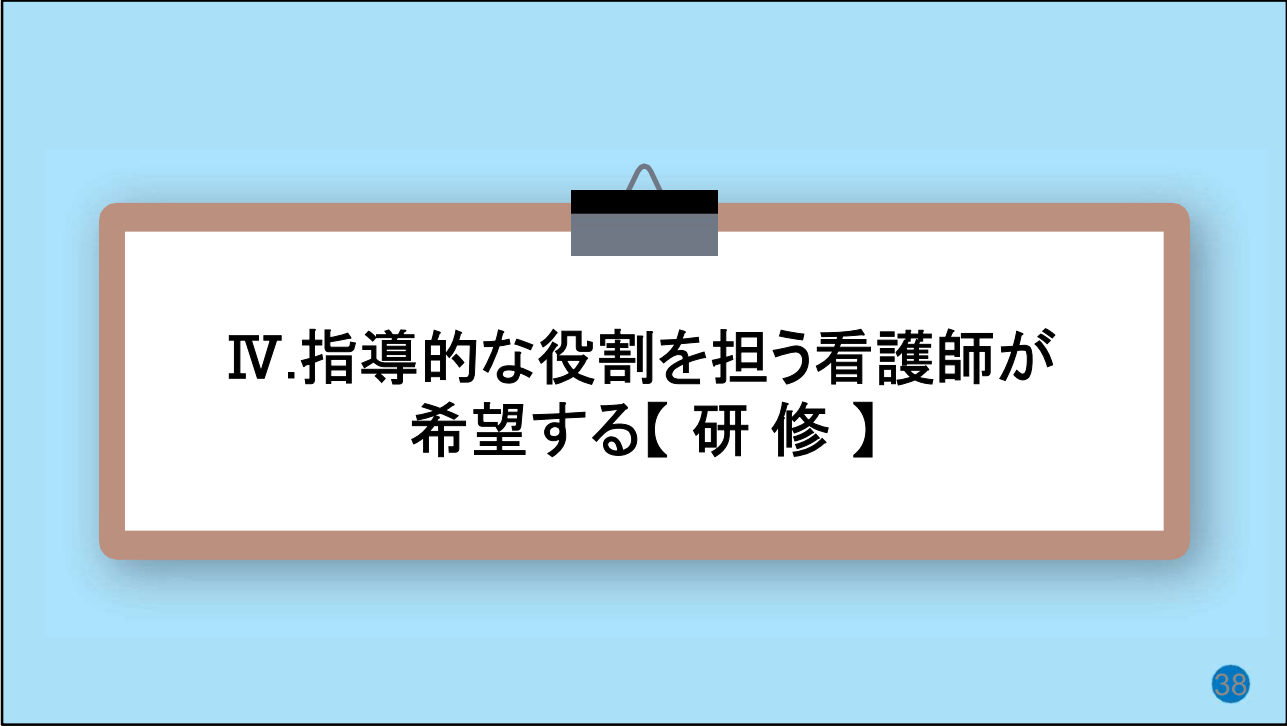
これら【役割】と【能力】は、実際に指導的な役割を担っている看護師へのインタビュー調査の結果をもとに構成されている。所属や地域によって特徴があり、また今回抽出されていない要素もあるものと思われる。

37

「指導的な役割を担う看護師の【役割】」と「求められる【能力】」

これら【役割】と【能力】は、実際に指導的な役割を担っている看護師へのインタビュー調査の結果をもとに構成されている。

このインタビューに答えていただいた指導的な役割を担う看護師の所属が、特別支援学校や教育委員会、小学校、医療機関、と様々であるのと同じように、これら【役割】と【能力】には、所属や地域によって特徴があり、また今回抽出されていない要素もあるものと考えられる。



IV.指導的な役割を担う看護師が
希望する【研修】

38

指導的な役割を担う看護師が希望する【研修】

1	看護の質保証(成長発達・ヒヤリハットの共有・医療的ケア看護職員支援)
2	多職種連携の方法(コミュニケーション含む)
3	医療的ケア看護職員間の情報共有
4	教育現場・組織・法的背景の知識
5	保護者の支援(保護者からの学びを含む)
6	最新の医療および制度
7	看護管理・研修企画

39

【指導的な役割を担う看護師が希望する研修】

インタビュー調査の結果、指導的な役割を担う看護師が希望する研修は、以下の通り整理した。

- 1 看護の質保証(成長発達・ヒヤリハットの共有・医療的ケア看護職員支援)
- 2 多職種連携の方法(コミュニケーション含む)
- 3 看護職員間の情報共有
- 4 教育現場・組織・法的背景の知識
- 5 保護者の支援(保護者からの学びを含む)
- 6 最新の医療および制度
- 7 看護管理・研修企画



V.本研修の構成

40

本研修の構成

指導的な役割を担う看護師の「役割」	
1	医療的ケア看護職員のために体制を整備する
2	医療的ケア看護職員を支援する
3	医療的ケア看護職員を育成する
4	組織として医療的ケアを管理する
5	認定特定行為業務従事者を含む教職員を支援する
6	校内の多職種と連携・協働する ＜医療的ケア児を中心とした協働＞
7	学校医や主治医等と連携・協働する
8	医療的ケア児の学校生活を総合的に支援する
9	保護者を尊重しながら支援する
10	地域の特性や資源に応じた連携・役割をとる

目標:

- | | |
|---|---|
| 1 | 指導的な役割を担う看護師が医療的ケア児を中心とした多職種協働の在り方を理解する |
| 2 | 指導的な役割を担う看護師が多職種協働における自身の役割を考える |

指導的な役割を担う看護師の【役割】、求められる【能力】、希望する【研修】を吟味し、10の【役割】の中で回答も多かった内容に基づき、【役割:教員等の多職種と連携・協働する】の中の「要素:学校における医療的ケア児を中心とした多職種協働」に焦点をあて研修を企画した。

研修内容:

- ☆教育現場で求められる役割(総論)
- ☆指導的な役割を担う看護師の役割(調査結果より)
- ☆実践報告
- ☆グループワーク
 - 実践の振り返り
 - 組織・立場をこえた役割の共有
 - 医療的ケア児を中心とした協働の視点や実践の検討

41

【本研修の構成】

本研修は、ここまで紹介した指導的な役割を担う看護師の【役割】、求められる【能力】及び「希望する【研修】」を吟味し、10の【役割】の中で回答も多かった内容に基づき、【役割:多職種と連携・協働する】の中の「要素:学校における医療的ケア児を中心とした多職種協働」に焦点をあて、スライドに示した構成で研修を企画した。

示した役割一覧の通り、指導的な役割を担う看護師には、他にも多くの【役割】が求められ、それぞれに研修企画が成立する。

各組織で必要とされている課題に沿った設定が可能である。

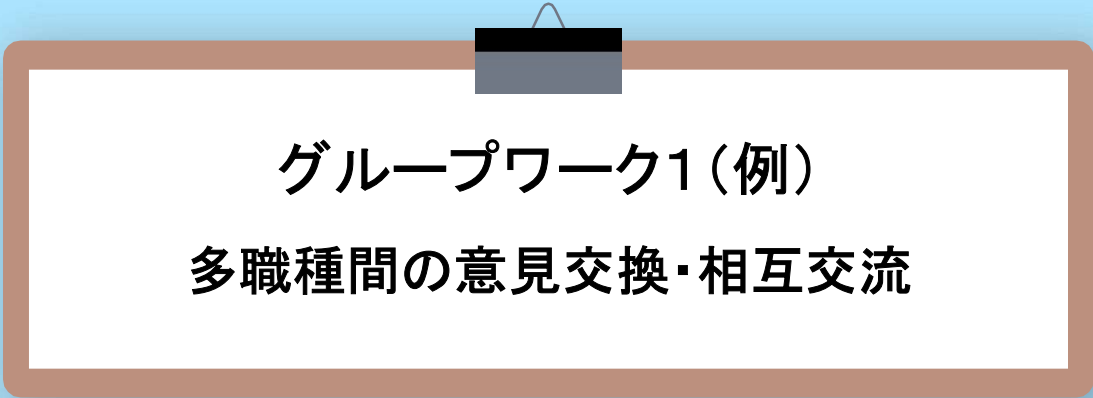
令和3年度 文部科学省委託事業
「学校における医療的ケア実施体制充実事業」
(医療的ケアのための看護師に対する研修機会の確保)

グループワーク

公益財団法人 日本訪問看護財団

目次

- I. グループワーク1(例)「多職種間の意見交換・相互交流」
- II. グループワーク2「医療的ケアに関するヒヤリハット場面の多職種協働」
 - 1. グループワーク2の主な検討内容
 - 2. ロールプレイ
 - 3. グループワーク2の内容
 - 4. グループワーク2のまとめ



グループワーク1(例)
多職種間の意見交換・相互交流

I. グループワーク1(例)

グループワーク1(例)では、指導的な役割を担う看護師と教育委員会担当者等の教職員との相互理解を促進することを目的として、両者がグループワークに参加することを想定した内容としている

【目標】

自身のこれまでの実践を振り返りながら、教員、看護師等の立場を超えた共通理解と課題解決のための指導や自身の実践のためのヒントを得ることができる

○教育委員会担当者・教員等

これまでの講義を受けた結果、教育委員会として指導的な役割を担う看護師の役割についての感想を述べる

○指導的な役割を担う看護師

講義や教育委員会担当者の感想を受けて自身の役割や実践についての感想を述べる

多職種間で意見交換できる機会を活用してください

3

このグループワーク(例)では、指導的な役割を担う看護師と教育委員会担当者等の教職員との相互理解を促進することを目的として、両者がグループワークに参加することを想定した内容としている。

【グループワーク1の目標】

自身のこれまでの実践を振り返りながら、教員、看護師等の立場を超えた共通理解と課題解決のための指導や自身の実践のためのヒントを得ることができる

【グループワーク1の内容】

- ・教育委員会担当者や教員等:これまでの講義を受けた結果、教育委員会として指導的な役割を担う看護師の役割についての感想を述べる。
- ・指導的な役割を担う看護師:講義や教育委員会担当者の感想を受けて自身の役割や実践についての感想を述べる。

この時間は、多職種間で意見交換できる機会として活用すること。



Ⅱ. グループワーク2

医療的ケアに関するヒヤリハット場面の多職種協働



II-1. グループワーク2の主な検討内容

グループワーク2のテーマ

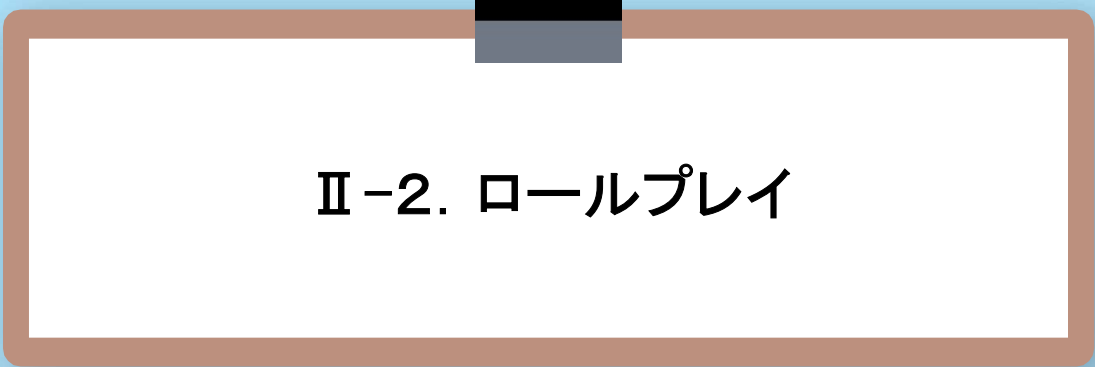
「指導的な役割を担う看護師として、状況をどのようにとらえてどのように調整するか？」

- 受講者は指導的な役割を担う看護師
- ロールプレイを見て、指導的な役割を担う看護師としての自分の役割を考える
- グループで、指導的な役割を担う看護師として何をするかについて協議する
- 結果を共有し、指導的な役割を担う看護師として求められる対応について、改めて考える

6

【グループワーク2の主な検討内容】

- グループワーク2のテーマ「指導的な役割を担う看護師として、状況をどのようにとらえてどのように調整するか？」
- 受講者は指導的な役割を担う看護師
- ロールプレイを見て、指導的な役割を担う看護師としての自分の役割を考える
- グループで、指導的な役割を担う看護師として何をするかについて協議する
- 結果を共有し、指導的な役割を担う看護師として求められる対応について、改めて考える



Ⅱ-2. ロールプレイ

7

登場人物の設定

指導的な役割を担う看護師(研修参加者)

Aさん(特別支援学校 小学部第5学年 男子)

肢体不自由(起因疾患は脳性まひ)と知的障害を重複
気管カニューレが頻繁に誤抜去してしまう

しかく看護師(4月に入職した医療的ケア看護職員)

看護師25年目・小児科での勤務経験はなし(主に内科病棟勤務)

さんかく先生(本校勤務は4年目)

教員20年目・本年度からAさんの担任になった

B看護師

学校勤務は5年目の医療的ケア看護職員。以前は病院
や老人介護施設で勤務

Aさんのお母さん(☺)

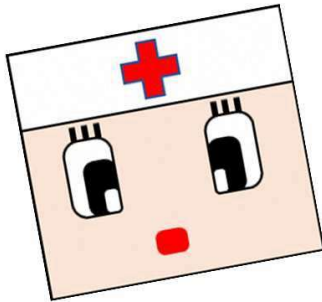
育児に熱心。自身の仕事やきょうだいの習いごとの送迎
もあり、連絡が取りづらい

【事例の登場人物紹介】

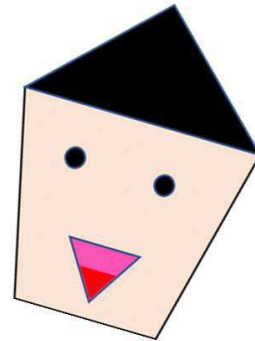
- 「Aさん」: 特別支援学校小学部第5学年に在籍する男子児童。脳性まひを起因疾患としており、肢体不自由と知的障害を重複している。医療的ケアは気管カニューレからの吸引と胃ろう。Aさんは、頻繁に気管カニューレが抜けてしまう。
- 今回は、気管カニューレが完全に抜けず、「抜けかけ」の状態になっていたことが複数回あったことがきっかけとなり「しかく看護師」と「さんかく先生」が話し合いをする場面である。
- ロールプレイで
「しかく看護師」(講師: 指導的な役割を担う看護師): 看護師としてはベテランが、今年度から学校で働き始め、約半年が経過している。医療的ケア児とかかわるのも学校で働き始めた今年からである。
「さんかく先生」(講師: 学校において医療的ケアを担当する教員等): 教員としてはベテランだが、本年度から医療的ケア児であるAさんの担任をすることになった。特定行為業務従事者になるための基本研修を受けたばかりである。
「その他」(会話中のみの登場人物): 同じ学校の医療的ケア看護職員5年目の「B看護師」、「Aさんのお母さん」が会話中に登場する。

受講している指導的な役割を担う看護師は、この課題を解決するために校内の調整をおこなう「指導的な役割を担う看護師」の立場になって考える。

しかく看護師は、Aさんの気管カニューレが
抜けかかっていたことに気づいて…



しかく看護師

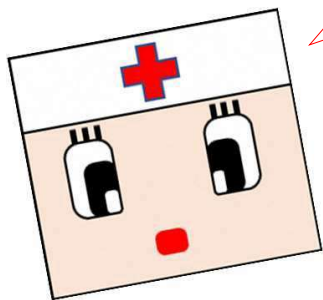


さんかく先生

9

しかく看護師は、さんかく先生の授業中にAさんの気管カニューレが抜けかかっていた場面に気づき、対応をしました。

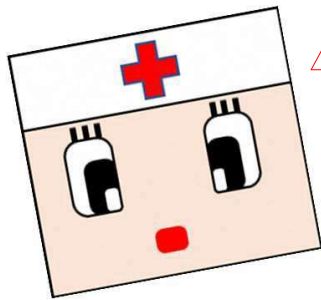
2学期に入ってから3回目のことだったので、今後の対応について相談しようと、児童の下校後、教室の掃除をしていたさんかく先生に声をかけました。



さんかく先生、相談したいことがあるのですが、
今よろしいですか？



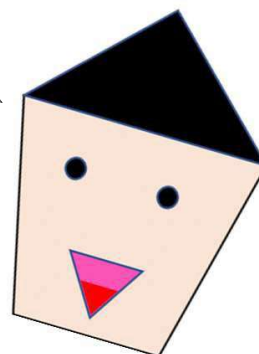




今日の授業中に、Aさんの気管カニューレが抜けかけていた件ですが、さんかく先生に言われて見た時には、普段は見えないチューブの部分が外に見える状態になっていました。これで、2学期に入ってから3回目ですよ。抜けてしまわないように、何とかしないとけないのでは。さんかく先生はどのように思いますか？



アア、そうね……。
Aさんは自分の気持ちを伝えられるようになることを目標にしているので、抜けかけたかな？と感じた時には、周りの人に伝えるように指導しているんですが、まだ、伝えられないことが多いんです。

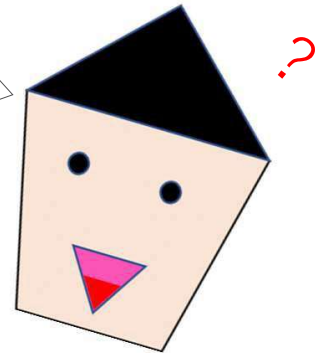




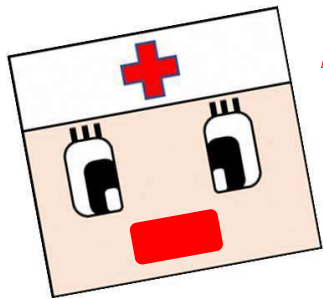
それでは、Aさんが苦しい状態を続けることになるのではありませんか。Aさんの身体のことを考えているんですか？



自分も初めて見た時はビックリして、その日の担当看護師だったB看護師に見てもらいましたが、B看護師は首のあたりを調整して、特に何もおっしゃらなかったのも、そんなB看護師の反応を見て、大丈夫なんだ…と、思いました。
お母さんに報告したら、病院受診の時にカニューレを入れ替えた後からは家でもよくあるし、特に苦しみなさそうだと、の事でした。
これまでも同じような事があった時は看護師を呼んでいますが、それではダメですか？

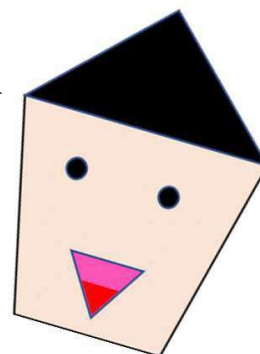


お母さんは、そう言っていたのですね…。
(B看護師さんから聞いていない事には触れず)
お母さんは、家でも繰り返しているけどAさんが苦しくなさそうだから問題にしていらないようですね。
でも、今日私が見に行った時にSpO₂を測定したら、低下していました。
そもそもカニューレが抜けやすい状況で学校で過ごすのは、Aさんにとってリスクがあります。抜けてしまわないよう対策を立てるべきです。





でも、大人が先回りしたら、周りに教員
がない時や、将来、進路先に行った
時に、Aさん自身が困る事になります。
その時になってから対応を考えても遅
いですよ。



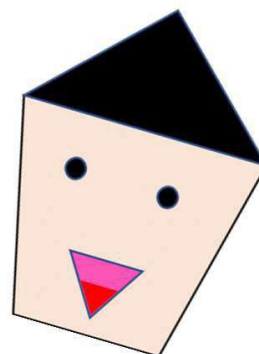


緊急時は医師に相談の上、再挿入をしても良い事にはなっていますが、学校には医師もいないし、完全に抜けてしまった時には、Aさんの状態によっては、絶対に必ず挿入できるとは限らない状況になっているかも知れないのです。
だから、カニューレが完全に抜けてしまったら、大変な事になります。





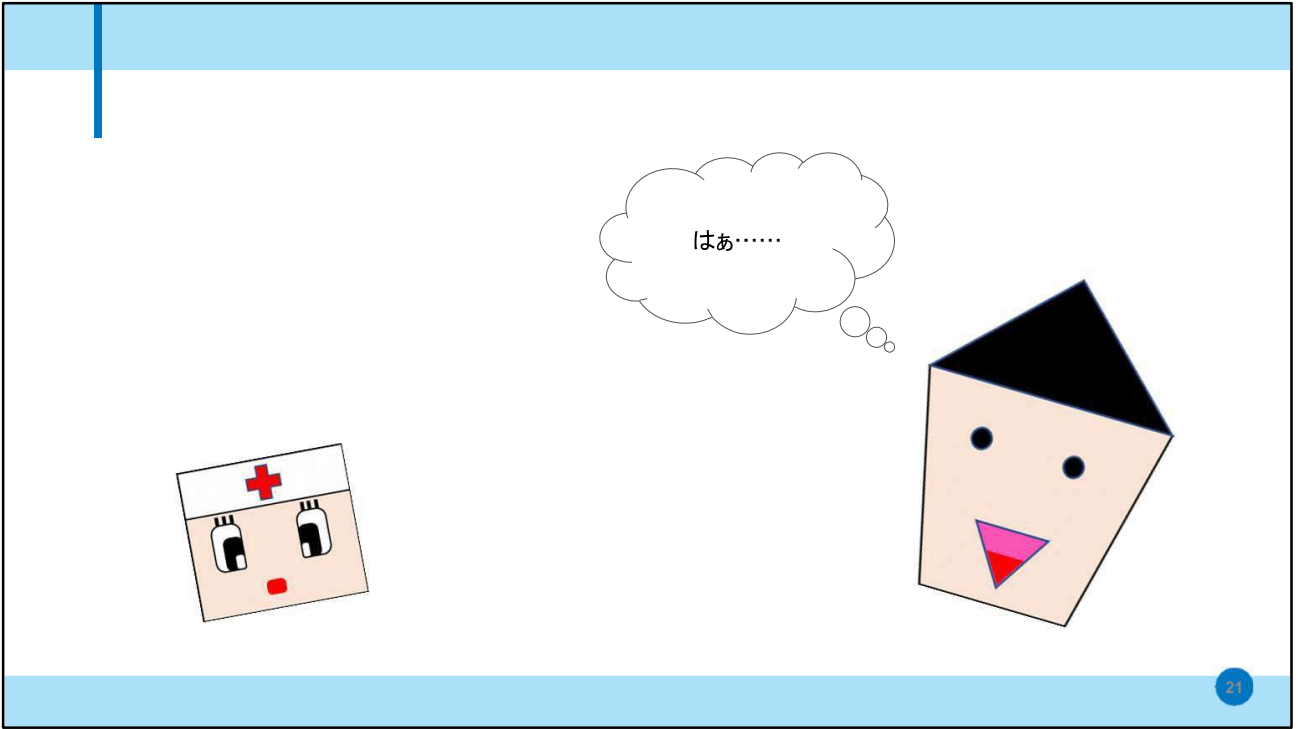
そうなのですか…でも、Aさんは周りに人がいないと、もし、自分で抜けかけた事に気づいても、自分で発信できないようになってしまいかも知れません。Aさんの将来のことを考えてくれているんですか？





抜けてからの対応も大事ですが、その前に、抜けないようにする対応を考える事も大事です。





ロールプレイは以上です

このあと指導的な役割を担う看護師(研修参加者)は、しかく看護師とさんかく先生からそれぞれ相談を受けます

しかく看護師からの相談内容

- **さんかく先生**は、カニューレが抜けかけの状態になることが、かなり危険だということを知らないのか？
- **さんかく先生**は、「いざとなったら、看護師が再挿入すればいい」と簡単に考えているようだ。
- もっとお母さんからの情報を看護師と共有してほしい。
- 以前対応した**B看護師**は、何故**さんかく先生**に言わなかったのか。
- **B看護師**が、**インシデント・レポート**を作成してくれていればこんなトラブルにならなかったのではないか。



23

【しかく看護師からの相談内容】

- **さんかく先生**は、カニューレが抜けかけの状態になることが、かなり危険だということを知らないのか？
 - **さんかく先生**は、「いざとなったら、看護師が再挿入すればいい」と簡単に考えているようだ。
 - もっとお母さんからの情報を看護師と共有してほしい。
 - 以前、**さんかく先生**が初めて見た時に対応した**B看護師**は、何故**さんかく先生**に言わなかったのか。
 - **B看護師**が、**インシデント・レポート**を作成してくれていればこんなトラブルにならなかったのではないか。
- しかく看護師から以上のような内容の相談を受けた時、指導的な役割を担う看護師としてどのように考えるか。

☆ファシリテーターのためのポイント☆

【しかく看護師が先ほどのように考えた背景として考えられることの一例】

- 学校で勤務したての看護師は、このように、「教員は医療的ケアのことを知らない」と特に思いがちである。実際、この**さんかく先生**は、医療的ケア児の対応の経験は少なく言葉としては分かっているが、本質的な危険性を知らないかもしれないという視点で対応を考える必要がある。
- このしかく看護師も、医療的ケアの経験は少なく、気管カニューレの再挿入という、むしろ病院では看護師が行わない行為を行うことに対する不安があることもわかる。
- 先輩看護師である**B看護師**の対応に不満を感じているが、連絡系統がはっきりしている病院に比べて、医療的ケア開始から間もない学校では、医療的ケアに関する連絡系統がはっきりしていない場合もあり、不安を大きくしている可能性も考えられる。

(ほかにも考えられることがある。)

ヒヤリ・ハットについて

インシデントの影響度分類

レベル	傷害の継続性	傷害の程度	内容
0	-		エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、児童生徒等には実施されなかった
1	なし		児童生徒等への実害はなかった（なんらかの影響を与えた可能性は否定できない）
2		軽度	処置や治療は行わなかった（児童生徒等の観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性は生じた）
3 a	一過性	中等度	簡単な処置や治療を要した（消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など）
3 b		高度	濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院、骨折など）
4 a	永続的	軽度～中等度	永続的な障がいや後遺症が残ったが、有意な機能障がいや美容上の問題は伴わない
4 b		中等度～高度	永続的な障がいや後遺症が残り、有意な機能障がいや美容上の問題を伴う
5	死亡		死亡

引用：「第1回国立大学医学部附属病院医療安全管理協議会総会（平成14年10月31日・11月1日開催）にて承認（議事要旨より抜粋）」（一部改変）
https://plaza.umin.ac.jp/~nuhc/Portals/0/Images/activity/report/sgst_category/safety/incidentcategory.pdf

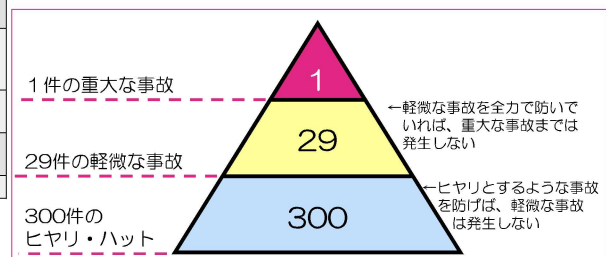


図 ハイน์リッヒの法則

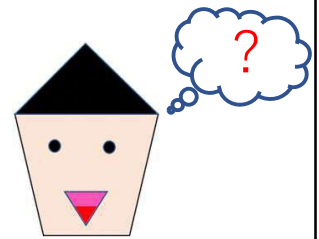
24

【「ヒヤリ・ハット」と「インシデント」の用語についての確認】

- 今回の研修では、「誤った行為が実施される前に発見されたもの、あるいは誤った行為が実施されたが、結果として児童生徒に影響を及ぼすに至らなかったもの」の総称を「ヒヤリ・ハット」としている。学校や地域によっては、例えば「実施される前に発見されたもの」を「ヒヤリ・ハット」といい、実施されたものの結果として児童生徒に影響を及ぼすに至らなかったものを「インシデント」としている場合もあると承知している。本研修では、これらの総称として「ヒヤリ・ハット」として取り扱っている。
- 左上の表は、「国立大学医学部附属病院医療安全管理協議会総会」の資料を一部改変したものである。
- 各学校では、「ヒヤリ・ハット事例」の報告について、レベルにかかわらず一つの様式で報告している場合と、レベルの低いものは別の様式で報告したり、報告を求めている場合もあると思うが、今回の事案がこの表で示したどの基準に該当するのか、また、その場合どういった対応をとるのか、について共通理解を図っておくことが大切である。
- 右の図で示している「ハイน์リッヒの法則」では、「1件の重大な事故」の背景に、「29件の軽微な事故」があり、さらにその背景には「300件のヒヤリ・ハット」があると言われている。学校における医療的ケアについても同様であり、ヒヤリ・ハットを悪いことと捉えず、ヒヤリ・ハット事例を共有し、軽微な事故を全力で防ぐことにより、重大な事故を発生させないことが重要である。

さんかく先生からの相談内容

- ・カニューレが抜けることの危険性ぐらい知っている。
- ・お母さんが大変なことと感じていないのは、主治医に言われたことや、家での様子から判断している。
- ・抜けないようにする対応は大事だけど、活動が制限されたらAさんがかawaiiそうだ。
- ・Aさん自身が、カニューレが抜けそうだと発信できるようになる方が、Aさんの自立に繋がると思う。
- ・でも、医療的ケアのことについて、看護師に意見をいうのは、気が引ける…。



25

【一方、さんかく先生からが指導的な役割を担う看護師Nさんに相談した内容】

- ・カニューレが抜けることの危険性ぐらい知っている。
 - ・お母さんが大変なことと感じていないのは、主治医に言われたことや、家での様子から判断している。
 - ・抜けないようにする対応は大事だけど、活動が制限されたらAさんがかawaiiそうだ。
 - ・Aさん自身が、カニューレが抜けそうだと発信できるようになる方が、Aさんの自立に繋がると思う。
 - ・でも、医療的ケアのことについて、看護師に意見をいうのは、気が引ける…。
- さんかく先生から以上のような内容の相談を受けた時、指導的な役割を担う看護師としてどのように考えるか。

☆ファシリテーターのためのポイント☆

【さんかく先生が先ほどのように考えた背景として考えられることの一例】

- ・さんかく先生は、医療的ケア児の対応は初めてといっても、この学校に勤務してから今まで、校内で医療的ケアを行っている様子は見てきているし、医療的ケアの基本的なことについては研修してきている。
そのため、「わかっていない」という態度でしか看護師から言われることに戸惑いを感じている。
- ・この学校では、保護者との窓口を担当に一本化しているのも、お母さんが主治医ともこのことを話していて、家での様子もしっかり見ていることを知っている。
それを踏まえてしか看護師に話しているのに、分かってもらえないことにももやもやしている。
- ・さんかく先生は、「しかく看護師が言う『抜けないようにする対応』は、活動を制限することなんだろう」と感じている。
でも、このような場面を、さんかく先生が普段、自立活動で指導している、コミュニケーションの力を伸ばすきっかけにできないだろうかと考えている。
- ・しかし、さんかく先生は、医療の専門家である看護師に対して意見を言う自信がなく、我慢してしまうことが多い可能性がある。

(ほかにも考えられることがある。)



II-3. グループワーク2の内容

26

【テーマ】

指導的な役割を担う看護師として、状況をどのようにとらえてどのように調整するか？

- Aさんを中心に考えましょう。
- 「正解」はありません！
- 自由な発想で、色々な意見を出し合ってください。
- 不足している状況や情報は、各グループで設定してください。



27

【テーマ】

テーマ：「指導的な役割を担う看護師として、状況をどのようにとらえてどのように調整するか？」

- 指導的な役割を担う看護師として、どのように対応するかについて協議する。
- 研修企画者が想定した「模範解答」を探るための時間ではない。
- Aさんを中心に、Aさんのためにどうしたらよいか、という視点で考える。
- まずは、いろいろな視点から意見を出し合う。
- ここまでの説明で不足している情報は、グループ内で補完して、それぞれで設定する。

グループワーク2の発表

発表内容

- 1 グループ名
- 2 一番の課題は何か？
- 3 どこから取り組むか？

28

【発表内容】

- ・グループ名
- ・一番の課題は何か？
- ・どこから取り組むか？



II-4. グループワーク2のまとめ

29

指導的な役割を担う看護師として意識してほしいこと: その1

- 気管カニューレが「抜けかけ」の状態になった要因の検討
- 「抜けかけている時の対応」と「抜けてしまった時の対応」の違いの確認と具体的な対応の検討
- 医療的ケアに知見のある医師や学校医、主治医に相談するときのポイントや手順の確認

30

【指導的な役割を担う看護師として意識して欲しいことのまとめ】

- 「抜けかけ」の状態になった要因の検討: 初めに行わなければいけないことは、「抜けかけ」の状態になった要因の検討である。Aさんの「手の動き」や、「『カニューレの異常』を発見した時の対応」だけでなく、「なぜ、そのような状態になったのか」、「気管カニューレのサイズ」や「普段の呼吸状態」、「顔色」など、看護師だからこそ分かる視点から要因を分析し、校内で共有することが大切である。
- 「抜けかけている時の対応」と「抜けてしまった時の対応」の違いの確認と具体的な対応の検討: その上で、「抜けかけている」状態と「抜けてしまった」状態では、危険性や対応が変わる場合もある。このような、「傍から見たら小さな違いでも、対応が変わる場合がある」ということを校内で共有し、対応を検討する。
- 医療的ケアに知見のある医師や学校医、主治医に相談するときのポイントや手順の確認: 保護者との窓口が担任に一本化されていて、直接保護者と話すことができないため、ほしい情報が手に入らないという声も聞く。直接やり取りをできるようにすることも大事だが、在籍する医療的ケア児の数が多い場合は、なかなか調整がつかない場合もある。そのようなときには、担任など、保護者との窓口になっている教員と「指導医や主治医に相談するときのポイントや手順」を共有し、ほしい情報が過不足なく手に入るよう調整することも、指導的な役割を担う看護師に求められる専門性の一つである。特に学校で働き始めたばかりの医療的ケア看護職員は、この辺りで苦労することが多いため、指導や支援が必要となる。

指導的な役割を担う看護師として意識してほしいこと:その2

- 医療的ケアに関する相談窓口や指示系統の明確化
- 個別の教育支援計画や個別の指導計画の共有
- ヒヤリ・ハット・レポートを積極的に出しあえる環境づくり

31

【指導的な役割を担う看護師として意識して欲しいことのまとめ】

- 医療的ケアに関する相談窓口や指示系統を明確化:指示命令系統は学校の実情によって大きく変わるが、基本的に校長を中心とした組織である。「学校としてどう対応するか」を管理職を含む教職員全体で考えられるようにしておくことが大切である。
- 個別の教育支援計画や個別の指導計画の共有:「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」等、子供たちの教育を行うための計画の作成、実施、評価に医療的ケア看護職員も主体的に関わることで、教員が「医療的ケア看護職員と一緒に指導する仲間である」という意識を醸成することに繋がる。医療的ケア看護職員についても、「単に医療的ケアを行う職員」ではなく、「子供の教育に携わる一員である」という意識を醸成することに繋がる。
- 「ヒヤリ・ハット・レポート」を積極的に共有できる環境づくり:「ヒヤリ・ハット」はみんなに気づきを与える貴重な機会であり、これを共有することが、さらに大きな重大事故の防止につながる。このような事例が生じた際に、当事者を責めるのではなく、前述の、背景にある要因の分析につなげることが大切である。そのために、例えば、「様式の簡略化」や、「ヒヤリ・ハットの報告基準の明確化」といった仕組みづくりに加え、「お互いに責め合うことのない話合いの場」や「職場環境づくり」も重要である。他職種連携に加え、管理職を含む教職員間での連携の一層の充実を図れる環境づくりにも取り組む必要がある。

多職種協働の充実のために

- 互いの専門性を尊重した上で協働する
- 「ゴール」は一つ、互いの専門性を活かした方法を尊重する
- 「何を話し合うか」や「話し合いの時間」を明確にする
- 伝えたいことを端的に説明できるようにする

32

【多職種協働の充実のために】

このグループワークを単なる本事例の検討で終わらせず、今後の学校等における多職種協働に繋げる視点について説明する。

- 互いの専門性を尊重する: 本ロールプレイの事例では、「あの人は分かっていない」という思い込みが、互いの考えのずれを大きくしている。お互いのできないところを見つけて指摘するのではなく、良さを見付け、そこを伸ばすのは、特別支援教育に限らず人とかがかわる上で大切なことであり、むしろ、障害のある子供とかがかわっている方々にとつては、得意なことではないか。いわゆる「個人攻撃の罠」にはまり、相手を否定するのではなく、互いの専門性を尊重していくことが大事である。
- 「ゴール」は一つ、互いの専門性を生かした方法を尊重する: ゴールを共有し、同じ方向を向いて支援していくことが大切である。ゴールとは、医療的ケア児(今回の事例ではAさん)を中心としたものであり、その思いは教員も医療的ケア看護職員も同じである。同じゴールを見据えつつ、そこに辿り着くための方法は、「看護師の専門性を生かした方法」、「教員の専門性を生かした方法」であり、それぞれの専門職としての方法を尊重することが大切であり多職種協働の醍醐味である。
- 「何を話し合うか」や「話し合いの時間」を明確にする: 話し合いの道筋や目標が明確でない場合、周辺情報の共有に終始してしまい、「ゴールには至りませんでした」となってしまう場合がある。学校では会議が多く、放課後に休憩時間を取るような学校もあるほか、働き方改革で退勤時間が決まっている等、時間が作れない状況もある。そのような学校内の限られた時間の中で会議やカンファレンス等をするためにも、「何を話し合うか」、「話し合いの時間」を決めておくことが大事なポイントになる。
- 伝えたいことを端的に説明できるようにする: 多職種で共通の理解を促進するためには、お互いの思いを言葉にして伝え合うことが大切である。そのような時に、説明する力が求められる。グループワークの発表のように限られた時間で、多職種間でも伝えたい要点を端的に説明することができれば、多職種の共通理解が促進され、医療的ケア児を中心とした協働がしやすくなる。

